



『潮騒』第九号に
よせて」

同窓会会長
中村松樹(四期)

早春の候、同窓生皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。同窓会長を務めています、第四期生の中村松樹です。

私は会長を務めて七年目になりますが、この六年間を振り返り、礼高の為に何も力添えをすることが出来なかったことを反省する次第です。

礼高も少子高齢化の影響で、生徒数の減少に歯止めがかからない状況にあります。最近では島外の高校への進学も増加しており、入学生の確保が極めて厳しく、先生方と色々と協議をしていますが、なかなか打開策が見つからない状況です。そこで同窓生の皆さんで、良いアイデアがありましたら、是非ご教授頂きたいと思っています。

現在、校長先生をはじめ諸先生方の努力で、礼文町から様々な支援を受けることができるメリットを中学生や保護者に伝えていきたいと考えています。

また、去る二月二十九日に同窓会入

第九号

北海道礼文高等学校同窓会

発行日

平成二十四年三月二十六日

会式を行いました。今年度で同窓生も一〇〇六名となりました。本会会員は日本はもとより、海外で活躍されている方もいて、頼もしい限りです。

礼文でも毎年同窓会総会を開催し、現教職員を含め年齢や職種を越えた親睦会を総会の後に行い、楽しいひと時の中で「絆」を深めています。今年度は役員の変更をし、別表のとおり新役員も決定しました。これから二年間役員・学年幹事の皆さんと協力して母校の為に頑張りますので皆さんのご支援をお願い致します。

また、昨年三月十一日の東北・関東大震災から一年が過ぎました。本会会員も被災地に居住されています。この紙面をお借りしてお見舞い申し上げます。まだまだ復興が進まない状況があります。私たちにできる支援を続けていくことを会員の皆さんに呼びかけたと思います。

最後に「潮騒」第九号を発刊するにあたりご協力いただいた役員ならびに学年幹事の皆さま、快くご寄稿くださった我が恩師の中川先生、ありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。



「自分の夢を創り出し、
実現する学校」
礼文高等学校長
佐竹 卓

礼文町内・道内はもとより、全国各地でご活躍されている礼高同窓会の皆様には、ご健勝でお過ごしのことと存じ上げます。

本校に赴任して三年の月日が流れようとしています。この間、子どもたちの明るい笑顔と目標に向かって取り組むひたむきな姿にいつも元気をもらっております。

さて、現在、本校では『自分の夢を創り出し、実現する学校』を目指して、教職員が一丸となって教育活動を展開しております。平常日はもちろんのこと、夏季・冬季の講習体制の充実をはじめ、子どもたちの進路実現・夢の実現に向けて、さまざまな取り組みを行っており、昨春は十五年ぶりに国公立大学に合格者を出すなど、その成果は着実にあらわれているところです。

さらに、現在、礼文町及び礼文町教育委員会からは、通学バスの支出援助等、さまざまなご支援を頂いておりますが、次年度からは、さらに、本校生徒が「自分の夢を実現する」ため、資格取得の検定料全額補助やアメリカカリフォルニア州への短期留学のご支援を頂けることになりました。関係者の皆様に深く感謝致しております。

また、『地域の学校』として、生徒・教職員の地域行事への積極的参加、町民の方々を対象にした学校図書館の平日貸し出し、本校教員が講師を務める学校開放講座の実施など、さまざまな活動を行っております。

ご承知のとおり、礼文町の人口が三〇〇〇人を割り、十五歳人口が年々減少する中、本校入学者の減少は、大きな課題となっています。

しかし、これからも、本校は入学する生徒一人ひとりが、自分の夢を見つけ、その夢を実現できる学校として、生徒・教職員が心を一つにして、取り組んでまいります。

今後とも、同窓生の皆様のご支援をお願いするとともに、同窓会のますますのご発展をお祈りしております。



裏山より校舎と利尻富士を臨む

創立三十周年記念式典挙行

平成一九年一〇月七日(日)同窓生をはじめ保護者・地域の方々・旧教職員など一一八名の出席をいただき、北海道礼文高等学校創立三〇周年記念式典が厳粛に執り行われました。

本校は昭和五二年二月に認可をうけ、昭和五三年四月に第一期生四七名の入学とともに北海道稚内高等学校礼文分校として開校しました。昭和五五年四月には北海道礼文高等学校として独立開校し、以来本年三月までに一〇〇六名の卒業生を輩出してきました。式典では、生徒会長の鎌田雄太君(二年)が生徒を代表して「私たちの合言葉は『夢を語ろう！叶えよう！』です。私たちはこの素晴らしい郷土の環境を活かした活動を行い、礼文高校の名を全道・全国に発信したいという大きな夢を抱いております。私たち礼文高校生は一層精進し、地域の方々の期待に応えられるように頑張ります。」と三〇年の節目の決意を語りました。また、式典では全校生徒四七名と少人数ではありますが、事前の式場設営から当日の受付・接待・感謝状贈呈の補助などに、真摯に取り組み姿は開校以来の伝統を思わせるものでした。これを節目に新たな礼文高校の歴史を築くべく、更に地域に根ざした学校づくりを目指します。



記念式典式次第

- | | | | |
|---|---------|----|---------|
| 1 | 修礼 | 8 | 受賞者謝辞 |
| 2 | 開式の辞 | 9 | 来賓祝辞 |
| 3 | 国歌斉唱 | 10 | 祝文・祝電披露 |
| 4 | 物故者追悼 | 11 | 生徒代表挨拶 |
| 5 | 校長式辞 | 12 | 校歌斉唱 |
| 6 | 協賛会会長挨拶 | 13 | 閉会の辞 |
| 7 | 感謝状贈呈 | 14 | 修礼 |

祝賀会次第

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| 1 | 開会宣言 | 6 | 祝宴 |
| 2 | 協賛会長挨拶 | | スライド上映 |
| 3 | 祝辞 | | 礼文太鼓 |
| 4 | 校長謝辞 | 7 | 万歳三唱 |
| 5 | 祝杯 | 8 | 閉会のことば |



放送局

NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会道北支部予選大会
【アナウンス部門】 第1位 3年 石田裕哉
【朗読部門】 第2位 3年 木村優希

NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会
【朗読部門】<奨励賞> 3年 木村優希

文芸部

北海道高等学校文化連盟道北支部書道展・研究大会
<優秀賞> 3年 斉藤なぎさ (全道大会出品)
3年 木村優希 (全道大会出品)

北海道高等学校文化連盟書道展・研究大会
<北海道高等学校文化連盟賞> 3年 斉藤なぎさ

その他

『税に関する高校生の作文』
<札幌国税局長賞> 北野のどか (2A)

『ネットトラブル根絶！メッセージコンクール』
【ポスター部門】
<最優秀賞> (宗谷総合振興局長賞) 石田裕哉 (3A)
<佳作> (実行委員会奨励賞) 木村優希 (3A)

バドミントン部

ヨネックス杯争奪バドミントン大会
<女子ダブルス> 斉藤なぎさ・佐々木百華 2回戦
<女子シングルス> 斉藤なぎさ 2回戦
佐々木百華 1回戦
<男子シングルス> 柳谷 将太 2回戦

北海道高等学校バドミントン選手権大会名寄支部予選会
<女子ダブルス> 斉藤なぎさ・佐々木百華 1回戦
<女子シングルス> 斉藤なぎさ 2回戦
佐々木百華 2回戦
<男子シングルス> 柳谷 将太 3回戦

北海道高等学校新人バドミントン大会名寄支部予選会
<女子シングルス> 佐々木百華 2回戦
<男子シングルス> 柳谷 将太 3回戦

卓球部

北海道高等学校卓球選手権大会名寄支部予選会
<男子シングルス> 松田 宗真 1回戦

バスケットボール部

北海道高等学校バスケットボール選抜優勝大会稚内地区予選会
予選リーグ敗退

道新杯争奪バスケットボール大会
利尻・礼文 35 - 95 LUDWIG
利尻・礼文 70 - 120 稚内高校

北海道高等学校バスケットボール新人大会稚内地区予選会
1勝2敗 宗谷管内 第3位

礼高の平成二二二年度

南カルフォルニアどさん子会主催のホームステイプログラムに応募し、小論文が最優秀賞(2名)に選ばれ、3年堀内光司君がロサンゼルスへ招待されました。堀内君は、この貴重な体験を活かし生徒会のリーダーとして活躍しました。



ネットトラブル根絶！メッセージコンクール ポスター部門
宗谷総合振興局長賞作品
3A 石田 裕哉



「礼文高校三四歳：開校当時を
思い起こし、池田先生を偲ぶ」

一期生担任
中川 和 憲

現在勤務している学校（星槎国際高等学校）の同僚から「礼文高校から電話です」・・・取り次いでもらったら、中村松樹同窓会長からの電話。懐かしい声が受話器の向こうから聞こえてきた。今年度の礼文高校の入学生は二名とのことで寂しい思いをしている。来年度はぜひとも二桁の新入生が入ってくることを期待したいと切実に話していた。また、年が明けたら同窓会報を出す予定だとのこと。何か原稿を寄せしてほしいという依頼だった。

指折り数えれば礼文高校も三四歳になる・・・開校時を思い出す。ゼロからの出発、学校づくりは大変だったが、生徒のみならず一緒に作り上げていくものは少しずつではあるが一つ、また一つと確実に形になっていった。その頃、先頭に立って指揮を執ってくれたのが初代教頭の池田明先生だった。残念なことには池田先生は平成二二年一〇月、ご逝去された。今一度、池田先生を偲んで当時を思い出してみる。

備に当たられた。このとき私は稚内高校に勤務しており、四月からの礼文分校での勤務を切望していたこともあって、一緒に仕事をさせていただいたが、三月の入学試験は私の稚内高校での入試関係の仕事もあり、池田先生が稚内高校の事務職員、宗谷教育局の人と礼文に向くことになった。礼文に渡った池田先生でしたが入試を無事終えたものの流水の到来で一週間近く礼文に足止めされ、「ウワハハハ マイッタマイッタ！ マージャンくらいしかやること無かった。」と大笑いして帰校されたことがつい昨日のことのように思い出される。

四月一日 男子二〇名 女子二十七名の新生を迎え開校式・第一回入学式が執り行われた。その後、転入生一名が加わり、四八名の生徒と六名の教職員による学校づくりが始まった。正に、何もないとところからのスタート・・・ことある毎に「君たちは校章も無ければ校歌も無い」と生徒たちに語りかけては涙ぐんでいた池田先生の姿が心に焼き付いている。

一年が過ぎたころ、一期生を稚内高校の分校という形ではなく礼文高校の一期生として送り出したい・・・そんな思いが学校にそして保護者の皆さんに広がっていった。このときも池田先生が中心となり一生懸命動かれた。その甲斐あってこの年の晩秋、礼文高校の独立開校が決定した。それからとい

うもの池田先生の一番の懸案であった『校章』『校歌』の決定、四月の独立記念式典の準備等々忙しい中にも希望に胸膨らませながら充実したうれしい日々を送ることができたものだ。

昭和五五年四月八日礼文高校として第一回入学式、そして四月一日には独立開校式典が挙行された。開校式では生まれたばかりの校旗や校歌が披露目され、生徒や保護者とともに心底から喜びに浸った。（この日の池田先生の心中は私たち以上の喜びと達成感であふれていたに違いない。）

翌年の三月礼文高校第一回卒業式が行われ、♪海原染めて・・・の校歌に送られて四八名の一期生が学び舎を後にした。私にとっても一生忘れられない素晴らしい卒業式。池田先生はじめ労苦を共にした教職員、時の在校生、保護者の皆さん、そして地域の方々！今一度衷心よりお礼申し上げます。

その年の四月、池田先生は、卒業生や在校生、そして多くの町民の皆さんに送られて次の赴任校（登別南高校）に向けて礼文を離れられたが、その後も多く卒業生や教職員、地域の皆さんとの繋がり絶えることはなかった。生徒たちからは「ペコラ」と親しまれ、やさしくも時には非常に厳しかった池田先生・・・先生を偲ぶとき真っ先に思い出されるのがあの豪快な笑い声。天国にあってもきつとあの笑いを振りまいておられるのでしょうか。

最後に、礼文高校の卒業生の皆さん、勤務された教職員の皆さんの今後ますますのご健勝とご多幸、そして礼文高校のますますのご発展を祈念申し上げます。



平成17年度札幌総会から
池田明先生のご冥福をお祈りいたします

礼文高校同窓会役員名簿

会 長	中 村 松 樹 (4期)
副 会 長	長 松 誠 (8期)
	村 物 伸 樹 (10期)
	藤 山 雅 美 (20期)
監 査	白 川 美 佐 恵 (5期)
	中 山 枝 美 (8期)
	鎌 田 雄 太 (29期)
事務局 長	江 刺 純 (22期)